



カラマツヤツバキクイムシ被害林分状況と管理方法について

林業試験場森林経営部経営グループ
 林業試験場保護種苗木保護グループ
 森林研究本部企画調整部企画グループ
 林業試験場

滝谷美香、林業試験場道北支場 竹内史郎
 徳田佐和子、石濱宣夫、和田尚之、新田紀敏、中川昌彦
 小野寺賢介
 対馬俊之

研究の背景・目的

カラマツヤツバキクイムシ被害が大発生した林分の管理に向けて、以下の点について検討しました。

- ・被害発生林分と被害発生個体の特徴
- ・本数被害率の程度に応じた管理方法の検討
- ・被害林分管理のコスト試算

結論

被害発生前

- ・適切な密度管理と、伐採木及び雪害・風倒被害木の搬出の徹底
- ・ハバチ等被害や乾燥傾向の気象状況など留意

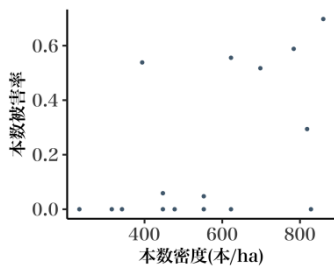
被害発生後

- ・本数被害率が25%以上の場合、土地の生産性(地位)や被害を受けた林齢、更に補助金制度等を勘案し、収穫(皆伐)の検討を推奨

研究の内容・成果

1) 被害発生林分の特徴

- ・被害木発生林分は、比較的本数密度が高め
- ・高齢級の方が被害を受けやすい



2) 被害発生個体の特徴

- ・同一林分内では、比較的小個体が被害を受けやすい



※被害を受けにくい林分のイメージ

- ・適切な密度管理
- ・風雪害処理・間伐後の林地残材なし

1) 及び2) の傾向について

- ・適切な密度管理がなされていない、且つ高齢級である林分で被害が起こりやすい傾向がありました。

3) 本数被害率の程度に応じた管理方法の検討

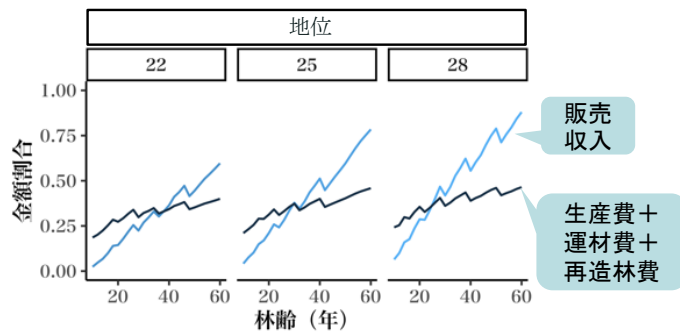
- ・10%以下：経過観察
- ・10～25%：状況を見ながら間伐を検討
- ・25%以上：皆伐を推奨



4) 本数被害率25%以上の場合のコスト試算

皆伐(収穫)によって収入が見込めるのでしょうか？

- ・概ね、40年生程度で収入が生じる
- ・若い林分では、再造林費の割合が大きい
- ・被害の程度、発生時期と材価の状況を見ながら判断
- ・特定地帯などに補助金が適用される場合もあるので、活用を検討する



金額割合：無被害林分の最も販売収入が大きい場合に対する割合
 生産費：林野庁(H28-29)素材生産費等調査結果から計算
 販売収入：R1.12月木材市況より計算

謝辞

陸別町、陸別町森林組合、北海道水産林務部森林整備課、森林計画課、道有林課、森林活用課、十勝総合振興局、十勝森林室の皆様には調査・研究において多大なるご協力をいただいた。道総研林産試験場主査酒井明香氏には、生産費計算において貴重なデータをご提供いただいた。ここに篤く御礼申し上げます。